

事業計画書

2016年度に将来構想策定委員会が設置され、2027年度末の会員と当会を取り巻く状況を展望し、新時代を拓くための「将来構想」が策定され、「厚生会がめざすべき姿（将来像）」として以下の3点が示されました。

- ・会員を生涯にわたり信頼と安心で支え続ける厚生会
- ・会員個々に対応した提案型活動の強化
- ・会員が自ら参加・参画することによる助け合い・支え合う協同型事業へ

この将来像の実現をめざし、「2018－2020中期経営計画（18中計）」では「50年の歴史を基礎に、会員からのさらなる信頼を築き上げる厚生会」を、「2021－2023中期経営計画（21中計）」では「変化に対応し、提案とサポートを通じて、会員に寄り添い・つながり・支え続ける厚生会」をビジョンに掲げ、「会員満足の提供」「成長への挑戦」「研究と人材育成」の視点に基づき取組みを推進し、会員に福利厚生事業を提供し続けていくことができるよう「安定した財政基盤の確立」に努めてきました。

2024年度より「将来構想」実現に向けた取組みの最終段階に入ります。

感染症の影響も残り国際紛争も継続するなか、将来の予測がますます困難になり、学校現場や会員を取り巻く環境が大きく変化し、夢をもって生きていくことが難しい時代になっています。だからこそ、現在や未来に「夢」を持つことができ、こころに「安らぎ」を生み出し、その「夢」と「安らぎ」を「厚生会と会員」「会員と会員」で支え合いながらその実現へとつないでいくことが大切であると考え、「2024－2027中期経営計画（24中計）」のビジョンは「夢と安らぎを紡ぐ」としました。「会員、その家族、所属所、厚生会役職員」が、糸を「紡ぐ」ように一体となり、社会の変化や困難を共に乗り越え、未来を創造していく。その核となる「厚生会」でありたいという思いを込めています。

24中計の初年度となる2024年度は、「厚生会ならでは」、「厚生会にしかできない」という当会の価値を提供し、会員、その家族、厚生会役職員の「Well-being」の実現を支え続ける、「夢と安らぎを紡ぐ」組織をめざし、「会員満足の提供」「成長への挑戦」「研究と人材育成」の視点に基づき、24中計と連動した「事業計画」を策定し、「事業計画」及び「50週計画」の確かな振返りを行い、各目標の達成に向け取組みを推進していきます。